

Tenth-grade sexuality education evaluated by students of a one-year undergraduate special course for Yogo teachers

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/44451

養護教諭特別別科の学生が行った性教育授業に対する生徒の受け止め方：
高校1年生対象に

Tenth-grade sexuality education evaluated by students of a one-year
undergraduate special course for *Yogo* teachers

河田史宝

Hitomi KAWATA

Key word : Peer education, Sexuality education, High school student

要約

本研究は、特別別科の学生がA高1年生を対象に実施した性教育授業に対する生徒の受け止め方を明らかにすることを目的とした。

201X年、201Y年に性教育授業を受けた高等学校1年生を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。その結果、いずれの年度も生徒は学生による性教育授業を肯定的に受け止めていた。学生による授業を肯定的に受け止めていた生徒は、授業振り返り評価も肯定的に受け止めていた。自由記載からは、9カテゴリーが抽出された。【年齢が近く話しやすい】、【楽しくわかりやすく学ぶことができる】、【新しい知識、大切なことが学べる】、【自分たちにとっても、大学生にとっていい経験になる】と年齢が近い学生の授業をとらえていた。学生による性教育授業を否定的、やや否定的に受け止めていた生徒も4%いたことから、授業を行う際には学級担任との十分な打合せや授業展開での配慮が必要である。

Abstract

This study conducted student evaluation of first-year high-school sexuality education conducted by students of a one-year undergraduate special course for *Yogo* teachers.

To first-year high school students who studied sexuality education during 201X and 201Y, an anonymous questionnaire survey was administered. Results show for each year show that students responded favorably to sexuality education. Students who responded positively to the lesson also responded to lesson evaluation in the affirmative. Nine categories were extracted from the freely written contents. The lesson of the near student of age had thought a student [became a good experience for students and the college student], [which is easy to say because a college student and age are nearly equal], [which can be studied intelligently and happily], [which can give new knowledge and important matters]. Effects of the lesson were the same as those by peer education. Students who responded to sexuality education negatively and slightly negatively were only 4%. Results show that, when performing a lesson, sufficient arrangements must be made with a class teacher. Consideration must be given to the conduct of the lesson.

I. はじめに

近年の都市化、情報化などの社会変化や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康にも大きな影響を与えている。子どもの健康課題も深刻化、複雑化しており、その一つに性の問題行動があげられ、中央教育審議会答申(2008)¹⁾においても指摘している。

性の問題の中でも性感染症(STD: Sexually Transmitted Diseases)が問題としてあげられる。性感染症には、淋菌感染症、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマなどがあり、性感染症定点からの報告が義務付けられている。その集計結果は、厚生労働省のホームページでも公開している²⁾。近年では性経験の低年齢化に伴い、高校生の中でSTDが広まりつつある。中でも、性器クラミジア感染症が急増している。性別では男性に比べて女性に増加傾向があり、10代の若年層の女性に多くなっている。その理由としては、初交年齢の低下があげられる³⁾。

性器クラミジア感染症は、性行為により感染する。女性では感染を受けても男性に比べて自覚症状に乏しいため、治療に至らないことが多く、気がつかないうちに病気が進行することもある。そのため、不妊症、子宮外妊娠や流産などにつながることもある。また、パートナーや出産児へ感染もある。そのため、性感染症の症状や予防について若年層への教育が必要となっており、厚生労働省も政府インターネットテレビにより「身近なことで性感染症~大切な人を感染させないためにあなたができること~」を放映している⁴⁾。また、リーフレット^{5,6)}や全国の保健所で無料の相談が可能なことをインターネットで検索できるように対策を講じている。

大学1年男女を対象とした悩みとその解決方法の調査では、「性感染症(エイズを含む)」は「学校の性教育で教えてもらった」ことが解決策になっていることを明らかにしている

⁷⁾。高校生を対象にした性知識の正解率と情報源の調査では、性感染症の情報経路の正解率50.6%、HIV感染の感染経路の正解率86.1%であり、いずれの知識の情報源も第1位が学校(授業)であったことを報告している⁸⁾。また、中学から大学生を対象にした知りたい性情報の内容調査では、「全般的な内容」の次に「性感染症」を選択するものが多かったことを報告している⁹⁾。これらのことから、学校で行われている保健学習や保健指導の授業で取り扱われている内容が、基本的知識として位置付き、悩んだときの情報源として活用されていることがわかる。また、「性感染症」は若年層が知りたい内容の一つとされ、学校の中で教えていく意義がある。

このような状況の中、A高等学校(以下、A高とする)からB大学養護教諭特別別科(以下、特別別科とする)^{注1)}に高等学校1年性を対象に性教育の授業依頼があった。特別別科所属の学生には、医学的知識があること、やピアカウンセリングの学びがあること、高校生に年齢に近いことからピアエデュケーション(仲間同士=同世代の学びあい: Peer Education)による学び合いを期待した依頼であった。ピアエデュケーションは、思春期における性教育の一手法として教育活動に活用されており、厚生労働省は「健やか親子21」において、思春期の子どもの主体的な行動変容を支えるための具体的取り組みの質的転換の一つに取り上げている¹⁰⁻¹²⁾。ピア・エデュケーターは、看護学生¹¹⁾、助産専攻学生¹³⁾など、学生や医療系の学生が多いことが報告されている¹⁴⁾。

本研究では、特別別科の学生がA高1年生を対象に実施した性教育授業に対する生徒の受け止め方を明らかにすることを目的とした。

Ⅱ. 研究方法

1. 対象

A 高 1 年生のうち、性教育の授業を受講した 201X 年 158 名、201Y 年 153 名、計 311 名を対象とした。

2. 調査期間と方法

201X 年 6 月、201Y 年 6 月の性教育の授業終了後の HR の時間に無記名自記式質問紙を行った。質問紙の配布と回収は、学級担任に依頼し、封筒に入れて回収した。

3. 調査内容

授業振り返り評価として「1.今日の授業は、受けてよかったですか（以下、授業に対する肯定感）」「2.友だちの意見を聞いていっしょに考えることができましたか（以下、協力的学習への参加）」「3.今日の授業は、大切な事柄だと思いましたか（以下、授業内容の重要性）」「4.今日の授業で、これからの生活に役立つことがあると思いましたか（以下、今後の役立ち感）」「5.「わかった」「なるほど」と思ったことがありましたか（以下、知識・理解の獲得）」「6.「もっと知りたい」ことはありましたか（以下、授業以外に知りたい内容）」の 6 項目とし、1 から 5 の項目は 4 件法で回答を求めた。6 の項目は「ある」「ない」で回答を求め、「ある」と回答したものには、知りたい内容を、自由記述により求めた。さらに、「今日のような大学生が参加する授業がある」とよいと思いますか（以下、学生による性教育授業への評価）」に、「そう思う（以下、肯定的）」「どちらかというと思う（以下、

やや肯定的）」「どちらかというと思わない（以下、やや否定的）」「そう思わない（以下、否定的）」の 4 件法で回答を求め、さらにその理由を自由記述により求めた。

4. 分析方法

質問項目ごとに無記入のものを除いて、度数と割合を算出した。年度及び質問に対する回答傾向とそれらとの関連を明らかにするために χ^2 検定を用いた。また、学生による授業への評価と授業振り返り評価との傾向を度数と割合により確認する。0 のセルが多かったため χ^2 検定は用いなかった。自由記載の内容は、文意を損なわないようにコード化し、内容が類似している回答ごとにカテゴリーにまとめた。

全ての検定は、有意水準を 5%未満とした。データ集計、分析には、Microsoft Office Excel 2010 及び統計分析ソフト IBM SPSS Statistics Version 19 を使用した。

5. 倫理的配慮

質問紙調査は A 高校長に了解を得て実施した。生徒に対しては、学級担任を通じて、プライバシーの保護と匿名性の保持、回答しない場合も不利益が生じないこと、データは研究目的以外に使用しないことを口頭にて説明をした。質問紙は、回収後封筒に入れ、学級担任から A 高養護教諭へ提出され、それを回収した。年度ごとの調査結果は、A 高へ紙面により報告した。

Ⅲ. 性教育授業

1. 性教育授業の内容の検討と打合せ

A 高養護教諭と実施の意図、授業内容について打合せをした後、指導案（50 分）を作成した。作成した指導案は、A 高学級担任、養護教諭が内容を確認後、学級担任と学生との分担を決めた。授業中にグループワークを行

うため、事前にグループ分けを学級担任に依頼した。さらに、性教育授業にあたっては、学級担任から事前にクラスの様子に関する情報提供がされた。実施当日には、授業開始前後に学級担任と学生との打合せ時間を確保した。

2. 学生への指導と配属

1) 授業を実施する学生の背景

B 大学養護教諭特別別科に在籍する学生である。看護師免許を取得あるいは国家試験受験資格を持っており、中には臨床看護の経験を有する学生も在籍する。

2) 学生配属

1年生5クラスに対して、1クラス4~5人の学生を配属した。201X年は学生の希望制とした。201Y年は学生数が27名であったことから、全員が参加しクラスに5~6名を配属した。

3) 学生への指導

学生への指導は、「養護実践(健康診断演習を含む)」(必修、2単位)中の2コマを使用して行った。学生には、A高からの性教育授業の依頼とその意図を説明した。学校における性教育、性感染症の増加、ピアエデュケーションについて概説し、指導案として授業の流れ、説明内容、手順を確認した。学校における性教育では、石川県性教育の手引¹⁵⁾、中学校学習指導要領¹⁶⁾、高等学校指導要領解説¹⁷⁾、中学校、高等学校の保健学習の教科書¹⁸⁻²⁰⁾をもとに、性教育の理解と高等学校「保健科」学習指導要領の範囲を確認した。性器クラミジア感染症の資料としては、厚生労働省から発行されているリーフレット^{5,6)}を活用した。授業中のグループワークでは、各グループに学生一人が入ってグループワークをサポートすることとしたが、生徒の主体的な行動変容を支えるためにピアカウンセリングを意識した関わり方をするように打ち合わせた。授業の終わりには、授業の感想も含めて、年齢の近い先輩として感じたことや考えたこと、高校生にぜひ考えてほしいことをメッセージの形で伝えることにした。学級担任から得た各クラスの様子を学生に伝え、情報の取り扱いには十分配慮するように指導した。

3. 授業の流れ

授業は50分間である。学級担任は、授業

のはじめとまとめを担当し、授業中は机期間巡視を行った。学生の分担は、配属クラス毎に授業分担部分を決めた。

授業の初めには男女別に作成したカードを使用して、カード交換を行った。このカード交換の目的は、性感染症の感染経路の広がりを疑似体験することである。クラスにより男女の人数が異なるため、男女同人数になるように学生は男子あるいは女子役を担当し、カード交換に参加した。カード交換では、カード交換に参加していない生徒がいた場合には、カード交換の方法の理解を確認するとともに、無理に参加をすすめることはしないこととした。このことは、生徒の個人差やすでに感染したことがある生徒、LGBT^{注3)}に対する対応である。また、クラス全体を見てカード交換が行われるようにした。

感染症の広がりや、学生のカードをもとに、「もし、○番の学生が性感染症に感染していたとすると」と仮定したうえで説明した。生徒の番号を使用することは、誤解を与えてしまう可能性もあるため、配慮したことである。性感染症の広がりや、中学校の教科書¹⁹⁾にも掲載されている「性関係のつながり」を活用して説明した。【知らないうちに感染する】ことや【目に見えない形でつながっている】ことなど複雑に広がっていくことを押さえた。その後、若年層の性感染症の発生状況として性器クラミジア感染症が多いことをグラフから気づかせ、症状、自覚症状の有無、男女ともに不妊症の原因になることを説明した。説明に使う言葉は、リーフレット^{5,6)}を参考に生徒にわかりやすい言葉を精選した。

カード交換からの気づきを整理する時間として、グループワークを設けた。まず、カード交換や資料からわかったことや気づいたことをグループの中で出し合い、A3用紙の中央に書くように指示した。次に、「私たちは今後、どのような行動をするとよいのか」を考えさせた。一人一人が性感染症予防のための

具体的な行動選択を1枚の付箋1つずつ書いた。学生は、生徒が自分たちで主体的に考えるように支援を行った。具体的な行動選択を、A3用紙の周りに貼り出し、グループの意見をまとめた。発表時間が取れたクラスではグループの発表時間を入れ、時間が取れなかったクラスではグループごとのまとめを行った。なお、グループワークの際は、学生一人が1

グループを担当し、ファシリテーターの役を担当した。

最後に、大学生から高校生へメッセージを伝え、授業のまとめとした。大学生からのメッセージは、配属クラス担当の大学生全員が発表したクラスや、時間の関係で一人がまとめて発表したクラスもあった。

IV. 結果

1. 授業振返り評価

授業振返り評価の結果を表1に示した。「授業に対する肯定感」「協力的学習への参加」「授業内容の重要性」「今後の役立ち感」「知識理解の獲得」のいずれの項目におい

ても、肯定的にとらえている割合が高く、否定的にとらえているものは少なかった。201X年と201Y年との間において、いずれの項目も有意差はなかった。

表1 授業振返り評価

		人数 (%)					χ^2 検定による有意差
		よかった	どちらかという とよかった	どちらかという とよくなかった	よくなかった	合計	
授業に対する肯定感	201X	113 (71.5)	44 (27.8)	0 (0.0)	1 (0.6)	158 (100.0)	.317
	201Y	114 (74.5)	37 (24.2)	2 (1.3)	0 (0.0)	153 (100.0)	
	合計	227 (73.0)	81 (26.0)	2 (0.6)	1 (0.3)	311 (100.0)	
		できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	合計	.243
協力的学習への参加	201X	113 (71.5)	38 (24.1)	4 (2.5)	3 (1.9)	158 (100.0)	
	201Y	101 (67.3)	43 (28.7)	6 (4.0)	0 (0.0)	150 (100.0)	
	合計	214 (69.5)	81 (26.3)	10 (3.2)	3 (1.0)	308 (100.0)	
		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない	合計	.793
授業内容の重要性	201X	134 (85.4)	21 (13.4)	1 (0.6)	1 (0.6)	157 (100.0)	
	201Y	130 (85.0)	22 (14.4)	1 (0.7)	0 (0.0)	153 (100.0)	
	合計	264 (85.2)	43 (13.9)	2 (0.6)	1 (0.3)	310 (100.0)	
		ある	どちらかという とある	どちらかという とない	ない	合計	.362
今後の役立ち感	201X	112 (71.3)	38 (24.2)	3 (1.9)	4 (2.5)	157 (100.0)	
	201Y	122 (79.7)	25 (16.3)	3 (2.0)	3 (2.0)	153 (100.0)	
	合計	234 (75.5)	63 (20.3)	6 (1.9)	7 (2.3)	310 (100.0)	
		あった	どちらかという とあった	どちらかという となかった	なかった	合計	.360
知識理解の獲得	201X	103 (65.2)	48 (30.4)	3 (1.9)	4 (2.5)	158 (100.0)	
	201Y	108 (71.1)	34 (22.4)	3 (2.0)	7 (4.6)	152 (100.0)	
	合計	211 (68.1)	82 (26.5)	6 (1.9)	11 (3.5)	310 (100.0)	

*各項目ともに未記入のものを除いて割合を算出した。

表2 授業内容以外に知りたい内容の有無

	ある	ない	合計	人数 (%)
201X	30 (19.4)	125 (80.6)	155 (100.0)	χ^2 検定による有意差 .197
201Y	23 (15.0)	130 (85.0)	153 (100.0)	
合計	53 (17.2)	255 (82.8)	308 (100.0)	

*未記入のものを除いて割合を算出した。

授業内容以外に知りたい内容の有無では、「ない」答えた割合がいずれの年度多く、201X年と201Y年と間において有意差は認められなかった(表2)。

授業内容以外に知りたい内容が「ある」と回答したものに対して、その内容を自由記述により回答を求めた。その結果を、カテゴリー別に示した(表3)。**【性感染症の種類や症状、現状について】**と回答したものが最も多く、次いで**【具体的な正確な感染予防について】**であった。記

載数は少なかったが**【病院での対応や性感染症の確認方法】**や、**【性について】****【いろいろ】**などの漠然とした内容もあった。

【性感染症の種類や症状、現状について】では、<他の感染症の種類と症状について>の記述が多く、<感染後の症状><感染状況>と症状や感染状況が知りたい内容としてあげていた。**【具体的で正確な感染予防について】**では、<具体的な予防方法>をあげるものが多かった。

表3 授業内容以外に知りたい内容

カテゴリー	主な記述内容	
性感染症の種類や症状、現状について (18)	他の性感染症の種類と症状について	(13)
	感染後の病状	(3)
	感染状況	(2)
具体的で正確な感染予防について (15)	具体的な予防方法	(13)
	正確な予防方法	(2)
性感染症以外の病気について (5)	性感染症以外の病気について	(4)
	病気になったときの対応など	(1)
感染経路について (5)	性感染症の感染経路について	(5)
性について (3)	性について	(3)
病院での対応や性感染症の確認方法 (2)	病院での対応	(1)
	病院以外の確認方法	(1)
いろいろ (3)	いろいろ	(3)

()内の数字はコード数である

表4 学生による性教育授業への高校生の評価

	肯定的	やや肯定的	やや否定的	否定的	合計	人数 (%)
201X	105 (66.9)	46 (29.3)	3 (1.9)	3 (1.9)	157 (100.0)	χ^2 検定による有意差 .230
201Y	117 (76.5)	30 (19.6)	4 (2.6)	2 (1.3)	153 (100.0)	
合計	222 (71.6)	76 (24.5)	7 (2.3)	5 (1.6)	310 (100.0)	

*未記入のものを除いて割合を算出した。

高校生の授業評価の結果を表4に示した。いずれの年度も、「肯定的」な回答が最も多く、次いで「やや肯定的」であり、「やや否定的」「否定的」は少なかった。201X年と201Y年と間において、有意差

は認められなかった。

授業評価の理由を自由記述により回答を求め、カテゴリー別に表5に示した。268のコードから9カテゴリーを抽出した。**【新しい知識、大切なことが学べる】**

が最も多く、主な記述ではく大学生の話
を聞いていろんなことがわかったのでま
た聞きたいと思った>32 コードと多く
示された。次いでく正しいことの理解を
深められるから>く自分たちが知らない
ことなどを分かりやすく教えてもらえる
し、今後、自分がどうやって行動してい
くべきなのかを考える事ができた>が多
くあがっていた。【楽しくわかりやすく学
ぶことができる】では、く楽しかったし
勉強になった>23 コード、くわかりやす
いから>などであった。【年齢が近く話し
やすい】では、く年が近いので話しやす
く、価値観が似ている>が 28 コードと
多くあがっていた。【いろいろな人の意見

が聞ける】では、くグループ活動や皆と
話す機会がふえるから>く交流できるか
ら>があがっていた。【自分たちにとつ
ても、大学生にとっていい経験になる】で
は、く大学生の方々もいろいろ勉強にな
ると思う>と大学生の勉強になることを
あげていると同時にく自分たちにもため
になり、大学生のためになると思う>と
双方のためになる記載があった。【知っ
ている内容だったので、必要だと思わな
い】では、く知っている内容だから>くわ
りにくい、難しい>く別に必要だと思わ
ない>く先生で十分>と内容や必要性の
記述あった。

表5 学生による性教育授業への評価理由

カテゴリー	主な記述内容	
新しい知識、大切なことが学 べる (74)	大学生の話聞いていろんなことがわかったのでまた聞きたいと思った	(32)
	正しいことの理解を深められるから	(19)
	自分たちが知らないことなどを分かりやすく教えてもらえるし、今後、自分がどうやって 行動していくべきなのかを考える事ができた	(18)
	今回の授業は楽しくてためになったので、またやったらいいと思う	(3)
	わからなかったことがよく分かったから	(2)
楽しくわかりやすく学ぶこと ができる (44)	楽しかったし勉強になったから	(23)
	わかりやすいから	(14)
	自分たちでは分からないことを、わかりやすく教えてもらえるから	(3)
	説明がわかりやすい	(2)
	とても話の内容がわかりやすかったから	(2)
年齢が近く話しやすいから (36)	年が近いので話しやすいから。年が近いので価値観が似ている	(28)
	先輩方の意見が聞けるから	(4)
	質問とかしやす。コミュニケーションがいい	(4)
		(4)
大学生ならではの話が聞ける (29)	学生だからこそ学べることがあると思うから	(7)
	大学生ならではの意見が聞けると思ったから	(6)
	学校の先生と違い、親しみやすいし楽しい授業だったから	(6)
	大学生からの知識を知ることができるから	(6)
	大学生の目線の授業だから	(4)
自分たちにとつても、大学生 にとっていい経験になる (29)	大学生の方々もいろいろ勉強になると思うから	(15)
	自分たちにもためになり、大学生のためになると思うから	(8)
	多分いっしょに学ぶことができと思うから。互いにいい影響があつていいと思う	(5)
	養護の先生になるための機会ができるからよいと思う	(1)
いつもの授業より新鮮 (15)	いつもと違う気分で授業できるから	(11)
	大学生の話聞いて先生とはまた違った授業ができるのでよい	(3)
	普通の授業よりもみんなが考えと思うから	(1)
		(1)
いろいろな人の意見が聞ける (14)	グループ活動や皆と話す機会がふえるから	(6)
	交流できるから	(5)
	いろいろな人と出会える	(2)
	先生とはまたちがう人の意見もわかるから	(1)
大切なことだから (8)	大切な話が聞けて、自分の身になるから	(5)
	性に関する話は大事なものでそれを伝える事が大切だから	(3)
		(3)
大学のことがわかる、将来の 参考にできる (7)	先生を目指すときの参考になるから	(3)
	最近の大学の授業をそのまま聞いているようだから	(4)
		(4)
知っている内容だったので、 必要だと思わない (12)	知っている内容だったから	(5)
	わかりにくい、難しい	(2)
	別に必要だと思わない	(2)
	先生で十分	(1)
	なんとなく	(2)

()内の数字はコード数である

表6 学生による性教育授業への評価と授業振返り評価の関係 人数 (%)

	学生による性教育授業への評価					
	肯定的	やや肯定的	やや否定的	否定的	合計	
授業に対する肯定感						
よかった	189 (61.0)	31 (10.0)	2 (0.6)	4 (1.3)	226 (72.9)	
どちらかというよかった	33 (10.6)	43 (13.9)	4 (1.3)	1 (0.3)	81 (26.1)	
どちらかというよくなかった	0 (0.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)	2 (0.6)	
よくなかった	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	
合計	222 (71.6)	76 (24.5)	7 (2.3)	5 (1.6)	310 (100.0)	
協力的学習への参加						
よかった	176 (57.3)	30 (10.0)	3 (1.0)	4 (1.3)	213 (69.4)	
どちらかというよかった	41 (13.4)	37 (13.9)	3 (1.0)	0 (0.0)	81 (26.4)	
どちらかというよくなかった	4 (1.3)	5 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)	10 (3.3)	
よくなかった	0 (0.0)	3 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.0)	
合計	221 (72.0)	75 (24.5)	7 (2.3)	4 (1.3)	307 (100.0)	
授業内容の重要性						
そう思う	209 (67.6)	46 (14.9)	4 (1.3)	4 (1.3)	263 (85.1)	
どちらかというと思う	13 (4.2)	27 (8.7)	2 (0.6)	1 (0.3)	43 (13.9)	
どちらかというと思わない	0 (0.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)	2 (0.6)	
そう思わない	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	
合計	222 (71.8)	75 (24.3)	7 (2.3)	5 (1.6)	309 (100.0)	
今後の役立ち感						
ある	187 (60.5)	39 (12.6)	3 (1.0)	4 (1.3)	233 (75.4)	
どちらかというとある	30 (9.7)	30 (9.7)	2 (0.6)	1 (0.3)	63 (20.4)	
どちらかというとなない	0 (0.0)	5 (1.6)	1 (0.3)	0 (0.0)	6 (1.9)	
ない	4 (1.3)	2 (0.6)	1 (0.3)	0 (0.0)	7 (2.3)	
合計	221 (71.5)	76 (24.6)	7 (2.3)	5 (1.6)	309 (100.0)	
知識理解の獲得						
あった	169 (54.7)	34 (11.0)	4 (1.3)	3 (1.0)	210 (68.0)	
どちらかというであった	45 (14.6)	35 (11.3)	2 (0.6)	0 (0.0)	82 (26.5)	
どちらかというとなかった	2 (0.6)	4 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (1.9)	
なかった	5 (1.6)	3 (1.0)	1 (0.3)	2 (0.6)	11 (3.6)	
合計	221 (71.5)	76 (24.6)	7 (2.3)	5 (1.6)	309 (100.0)	

*各項目ともに未記入のものを除いた。

学生による性教育授業への評価と授業振返り評価との関連を表6に示した。

学生による性教育授業への評価と「授業に対する肯定感」では、「よかった」と回答したものは肯定的に評価し、「どちらかというよかった」と回答していたものは、肯定的、やや肯定的に評価していた。「協力的学習への参加」においても「授業に対する肯定感」と同様の傾向の評価であった。

「授業内容の重要性」では、85.1%が「そう思う」と答えており、授業評価も肯定的、やや肯定的に評価した割合が多く、「今後の役立ち感」(75.4%)においても同様の傾向であった。

「知識理解の獲得」では、68.1%が「あった」と答えており、授業評価も肯定的に評価していた。「どちらかというであった」と答えたものも26.5%おり、授業を肯定的、やや肯定的に評価していた。

「授業に対する肯定感」「協力学習への参加」「授業内容の重要性」「今後の役立ち感」「知識理解の獲得」において良好にとらえていたものは、学生による性教育

V. 考察

学生による性教育授業を、201X 年 201Y 年ともに 96%以上のものが肯定的、やや肯定的に評価していることが明らかとなった。学生による性教育授業に対する自由記述内容からは、【新しい知識、大切なことが学べる】【楽しくわかりやすく学ぶことができる】【年齢が近くて話しやすい】などのカテゴリーが抽出された。これらのカテゴリーの内、コード数が多かった記述内容は、＜大学生の話聞いていろいろなことが分かったのでまた聞きたいと思った＞32 コード、＜年齢が近いので話しやすく価値観が似ている＞28 コード、＜楽しかったし勉強になった＞23 コードであった。生徒が大学生の授業をわかったと受け止めていたことは、授業を受けている生徒が、授業者（学生）を年齢が近く話しやすく、価値観が似ている仲間として受け止めたため、学生の説明を＜わかりやすいから＞＜説明が分かりやすい＞と受け止めていたと推察される。また、そのことが、いろいろわかったことにつながり、楽しく勉強できたことにつながったとも考えられる。【いろいろな人の意見が聞ける】では、＜グループ活動や皆と話す機会が増えるから＞＜交流ができるから＞ととらえており、これは授業の始まりのカード交換やグループ活動を授業の中に組み込んだことと関連があると考えられる。性に関する悩みは友達に相談する傾向⁷⁾にあり、友達同士や仲の良い友達同士で性の話をすることは多い。しかし、本研究の授業のように、クラスの男女の仲間と一緒に、同級生の考えを共有し、今後の行動選択を考えることは、様々な意見に触れる機会になり、一人ひとりが考える機会になるといえる。グループの話し合

授業への評価も肯定的にとらえていた。一方、いずれの項目も、学生による性教育授業をやや否定的、否定的に評価していたものは、約 4 %いた。

いの中に、学生が一人参加したことが【大学生ならではの話が聞ける】に関連したことも考えられる。大学生が生徒と同じ目線に立ちながらも、専門的知識を有している学生として生徒に向き合った効果である。これらは、異年齢の生徒と学生が Peer（仲間）として、一緒に性感染症のことを学んだことが有効に働いた結果だといえる。

授業内容以外に知りたい内容として＜他の性感染症の種類と症状について＞、＜具体的な予防方法＞があった。中学校学習指導要領解説保健体育編¹⁶⁾では、「エイズの病原体は人免疫不全ウイルス（HIV）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする」と記載されている。そのため、高等学校でも具体的な予防は説明せず中学校の内容と同様に取り扱ったため、生徒にしてみると、わかりにくかったことが推察される。土田²¹⁾は、現在性交相手のいる高校生、大学生を対象に「避妊を『いつもしている』者の避妊方法」を調査し、その 90%以上がコンドームによる避妊を実践していることを明らかにしている。近年、中、高校生では実際のコンドームの実物を見たり、触ったりした経験を持っているもの少ないが、学校現場で具体的に押さえなくともインターネットへアクセスして学んでいる²²⁾可能性もある。避妊情報源として学校は高い割合を占めている²³⁾が、インターネットも急速に情報源として大きな位置を占めてきていることが伺える。このようにインターネットからの情報は様々なものがあるため、情報選択についても指導

が必要となってくる²⁴⁾。

多くの生徒は、学生による性教育授業を【自分たちにとっても、大学生にとってもいい経験になる】ととらえていた。この傾向は坪川ら¹³⁾の大学生から教わることへの評価と同様であり、ピアエデュケーションとして肯定的に受け止めているといえる。しかし、ピアエデュケーションによる授業を否定的、やや否定的に受け止めている生徒もいた。自由記述では【知っている内容だったので必要だと思わない】とその理由が上がっていた。＜知っている内容だったから＞とその内容をすでに知っているため必要性がない生徒や＜別に必要だと思わない＞＜なんとなく＞と記述をしている生徒もいた。性に関して知りたくないのか、あるいはすでに知っているからなのかは不明であるが、クラスの中に4%くらい生徒(表4)が、学生による性教育授業に否定的傾向をもって授業に参加していることを、授業者として理解しておく必要がある。河田²⁵⁾が中学生に行った調査においても、同様に「知りたくない」と回答することあり、年度により生徒の実態が異なることを指摘している。そのため、学級担任との事前の打合せや当日の打合せも含めて、クラスの生徒の様子を理解したうえで指導を行う必要がある。さらに、全員が参加するカード交換の場面では、今回の授業のように、無理に参加を進めないといった配慮事項が重要であり、事前打ち合わせの際に行っておくとよい。

学生による性教育授業への評価と授業振り返り評価の関係から、学生による性教育授業を肯定的にとらえていた生徒は、授業を評価していた。若干否定的にとらえている生徒もいたが、授業振り返り評価も否定的とは限らなかった。授業に対する肯定感もあり、協力的学習への参加もできており、授業の重要性、今後の役立ち観も感じていた。これらのことは、ピアエデュケーションによる性教育を肯定的にとらえているといえる。しかし、知識理解

の獲得では「なかった」と回答した生徒もいた。＜わかりにくい、難しい＞と自由記載に書かれていたことも併せて考えると、授業中に使用する言葉や説明の仕方が生徒にわかりやすいものかどうかをさらに吟味する必要がある。学生はこれまで看護学を学んできている。そのため、看護学で慣れている言葉や感染症の説明にそのまま違和感なく使ってしまうと、生徒にとっては初めてであらう難しい言葉となってしまう。そのことを考慮しながら生徒が分かりやすい言葉や説明の順序を再検討していく必要がある。学生は、性教育授業前に模擬を行い練習して備えている。しかし、学生にとっては学校現場で初めて行う授業でもあるため、難しい点もある。実践を振り返り修正するなどさらなる工夫が必要である。

今回の調査では、性別の項目を作成しなかったため、性差による性教育授業への評価の違いは確認することができなかった。また、知識理解の獲得は4件法で尋ねたため、具体的にどのような内容が分からなかったのかを明らかにすることができなかった。そのため、分からなかった内容を書く欄を設けるなどの改善を行うことで、授業者、学級担任、養護教諭は生徒が分からなかった点、誤って理解した点などを確認する工夫が必要である。これらの点は、事後指導や授業改善にも役立てることができるため、質問紙用紙の内容を検討する必要がある。

今回の授業では、配布資料やリーフレットを活用せずに展開した。リーフレット等を活用して授業を展開すると、授業後にはそれらの資料が生徒の手元に残る。そのため、生徒は後からゆっくり読むこともでき、授業で得た知識をもとに自分自身で考えることもできる。知識の定着を図るためにも今後の自らの行動を考えるためにも、このような方法も検討する必要がある。また、感染経路を考えるために行うカード交換は、さまざまな生徒がいることを考慮し、異性間の交換に限定する

ことなく行うことも検討する必要がある。

VI. 結論

特別別科の学生がA高1年生を対象に実施した性教育授業に対する生徒の受け止めを明らかにする目的で、201X年、201Y年に授業を受けた生徒を対象に質問紙調査を行った。

その結果、いずれの年度も学生による性教育授業を肯定的に受け止めており、自由記載からは、9 カテゴリーが抽出された。その理由として、【年齢が近く話しやすい】ことから、【楽しくわかりやすく学ぶことができる】、その結果【新しい知識、大切なことが学べる】などの受け止め方をしており、【自分たちにとっても、大学生にとっていい経験になる】と捉えていた。この結果は、ピアエデュケーションによる授業の効果と同様であった。しかし、学生による授業に否定的な生徒や、＜別に必要だと思わない＞＜なんとなく＞などの【知っている内容だったので必要だと思わない】と回答した生徒もいることから、学級担任との十分な打合せや授業展開での配慮が必要である。

注 1

養護教諭特別別科は、看護師国家試験に合格し構成労働大臣の免許を受けている者、保健師助産師看護師法第 21 条に定める看護師国家試験の受験資格を有するものあるいは見込みのものを入学資格者として、1 年間で教職に関する科目や養護に関する科目を専門的に学び、養護教諭 1 種免許状を取得させる課程である。

注 2

養護教諭は、school nurse と異なる教育職員であり、学校における教育活動をとおして活動を行っていることから、日本学校保健会及び日本養護教諭教育学会の英文表記を採用し、Yogo teacher と示した。

注 3

LGBT とは、Lesbian、Gay、Bisexual、Transgender を意味する。

文部科学省からは、性同一性障害に関わる児童生徒だけでなく、「性的マイノリティ」とされる児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施について通知が出されている。

文部科学省：性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について、平成 27 年 4 月 30 日、

【付記】

本研究は、平成 25-27 年度科学研究費基盤研究 (C) (25381244) 研究代表者 (河田史宝) の一環として執筆された研究成果の一部分である。

引用文献

- 1) 中央教育審議会答申：「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について (答申)、2008.1.17
- 2) 厚生労働省：性感染症報告数、<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html> (検索日：2014.05.01)
- 3) 国立感染症研究所：感染症の話、性器クラミジア感染症とは、http://idsc.nih.gov/jdwr/kansen/k04/k04_08/k04_08.html、(検索日：2013.04.28)
- 4) 政府インターネットテレビ：身近なことです性感染症～大切な人を感染させないためにあなたができること、<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg7565.html>、(検索日：2013.04.28)
- 5) 厚生労働省：知っておきたい性感染症 mini 講座 モテキにこそ「する」オトコ、http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/saikansenshou/dl/leaf01.pdf、(検索日：2013.04.28)

- 6) 厚生労働省：知っておきたい性感染症 mini 講座、愛され女子の「感染しない」宣言、
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/saikansenshou/dl/leaf02.pdf、（検索日：2013.04.28）
- 7) 堀内真由美、河田史宝：性に関する悩みと今後の性教育のあり方 1—大学生男女の性に関する悩みと解決方法、茨城大学部紀要（教育科学）、257-273、2009
- 8) 光本恵子、番内和枝、久保田君枝他：高校生の性知識と情報源に関する調査、思春期学 Vol.22 No.3 353-359 2004
- 9) 劔陽子：若者の望む性に関する情報についての質問紙調査、思春期学 Vol.22 No.3 423-427 2004
- 10) 厚生労働省：「健やか親子 21」最終評価報告書
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000030389.html>（検索日：2014.3.22）
- 11) 栗田佳江、池田優子、杉原喜代美、牧野孝俊：看護学生の思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動を通じた学びと自己の変化—グループインタビューの分析、高崎健康福祉大学紀要、第6号、51-66、2007
- 12) 高村寿子：思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・ピアエデュケーションの現状、現代性教育研究ジャーナル 2011No.3、1-5、財団法人日本性教育協会、2011
- 13) 坪川トモ子、渡邊典子、田崎充子、赤羽礼子：性教育における助産専攻学生による高校生に対するピアエデュケーションの効果、新潟青陵学会誌第6巻第1号、35-45、2013
- 14) 宮内彩、佐光恵子、鈴木千春他：思春期における性教育としてのピアエデュケーションに関する研究動向、243-251
- 15) 石川県教育委員会：性教育の手引（四訂版）—中・高等学校編、2006
- 16) 文部科学省：中学校学習指導要領解説 保健体育編、東山書房、2008
- 17) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編、2009
- 18) 新版中学校保健体育、120-121、大日本図書、2010
- 19) 新・中学保健体育、94-95、学研教育みらい、2011
- 20) 現代高等保健体育、34-37、大修館書店、2013
- 21) 土田陽子：高校生・大学生の避妊に関する意識と行動—避妊行動の文化に着目して—、日本性教育協会「若者の性」白書・第7回青少年の性行動全国調査報告、121-139、小学館、2013
- 22) 岩室紳也：若者における性感染症の課題、日本学校保健会、学校保健の動向平成26年度版一、71、丸善出版、2014
- 23) 中澤智恵：性情報源として学校の果たす役割—性知識の伝達という観点から—、日本性教育協会「若者の性」白書・第7回青少年の性行動全国調査報告、177-198、小学館、2013
- 24) 数見隆生：現代の思春期・青年期の性をめぐる現状と課題—今日の社会で確かな生の学力を育むために—、科学研究費補助金基盤研究（c）課題番号19500576、報告書、2010
- 25) 河田史宝：中学校における性教育の課題と問題点、66-69、第31回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会抄録集 2008